

2025 年 3 月 19 日

いなべ市議会 議会行動計画検証ワークシート **資料 2**

外部評価（日本生産性本部 鎌田・千葉）

行動計画期間： 2023（R 5）年 12 月 1 日～2027（R 9）年 11 月 30 日

今回の評価： 2023（R 5）年 12 月 1 日～2024（R 6）年 1 月 27 日までの約 1 年
の活動について

【総 評】

- ・いなべ市議会では、2023 年 11 月に策定した「いなべ市議会 行動計画」に基づき、「政策サイクル」を作動させ、住民福祉の向上につなげるべく、日々の議会活動に取り組んできた。
- ・「いなべ市議会 行動計画」は、2010 年から取り組んできた議会改革をブラッシュアップして、それまで行ってきた議会の様々な取り組みを「政策サイクル」として一体的に作動させ、さらなる住民福祉の向上に貢献するため、2022 年の『地方議会成熟度評価モデル』による検証評価から得られた課題を、緊急度・重要度から整理し、行動計画に落とし込みを行ったと理解している。
- ・今回の評価検証については、各議員から率直な意見や感想、課題が述べられ、委員会にて課題・改善案・提言に整理されており、評価検証の主旨に沿ったものであることが分かる。
- ・この 1 年間に、「重要度・緊急度が高い」と分類した④住民との対話、⑥政策立案・提言・議案審査、⑫情報公開と説明責任、⑦総合計画、政策評価、予算・決算の連動、⑧体制づくりと活動基盤整備、①理想的な姿の構想、については短い期間ではあるが精力的に取り組んできたことが確認できた。
- ・ただ、活動期間が 1 年間と短いため、市民福祉の向上という具体的な成果にまでは到達できていない。このことは議会としても認識していると思う。
- ・各議員がアンケートのかたちで行動計画の取り組んだ振り返りを行ったことは、今回の議会改革が具体的に動き出したことの確認となり、今後の議会活動につながっていくと思われる。

- ・一部のテーマや課題について、議員間で認識や意見の違いがあることが分かったことは、今後の改善に向けての収穫といえるのではないか。
- ・同時に、さらなる課題や改善点という気づきや発見があり、仕組みや運用の豊富化と市民福祉の向上という成果に、今後、結びついていくことを期待している。
- ・評価検証は、それ自体が目的ではなく、また外部の目による評価はお墨付きを得るためのものではない。議会活動とその成果である市民福祉の向上に役立てること、市民福祉の向上を実践していくための課題や改善点を把握すること、現在できていることをもっと良くしていくこと、次の段階へ成熟度を上げるための課題を明確化していくためのものである。
- ・検証評価の結果や資料は、市民にも公開されると聞いている。議会における取り組みとその評価を市民に対してどのように分かりやすく伝えるか。市民が興味や関心を持ち、その内容が理解できる説明や表現方法という視点から見た場合は、改善の余地がある。
- ・結果が分かる。経過が分かる。活動状況が分かる。見て分かりやすく、市民も興味と関心を持てる。こうした点を考慮して市民へ伝える手法を考えるとよいのではないか。
- ・議会活動の具体的な成果は、例えば「住民との対話のチャンネルや回数を増やしたことにより、これまでは得ることが難しかったと思われる住民からの声や課題を得ることができ、議会として委員会の調査研究のテーマとして取り上げた結果、〇〇という取り組みにつながった」というような表現を行うことも方法の一つではないか。
- ・引き続き、活動を前進・充実させて、市民に対して成果を伝えることを期待している。

【個別設問】

設問 1

- ・参加人数が少ない
→市民が知りたい内容、市民がわかる説明、参加しやすい場になっているか？
- ・市民との接点、意見を収集するチャンネルが増えたことはよい。
- ・SNS は運用の仕方や炎上の際の対処方法等も事前に検討・準備を。
- ・議会報告会、主権者教育、みんなの声カフェは、全議員で分担し、特定の人しか話すことができないという状況に陥らないようにしてください。

設問 2

- ・取り組みを継続して、市民の認知度を高めてください。
- ・市民から聞いた声を議会の調査研究テーマ等に取り込む仕組み（所管事務調査等）、市民へのフィードバック方法（議会広報で定期的に掲載等）を確立してください。
- ・仕掛けは広報広聴委員会、実践活動は議員の全員参加で。

設問 3

- ・改善策を実施してください。一般参加のほか、ターゲットがいる団体へ出向くのも一手法。

設問 4

- ・無理のない範囲で活動するようにしてください。

設問 5

- ・議会力、議員力の向上のため、継続して実施できるとよい。
- ・ベテラン議員による後継者育成の場としても活用を。
- ・委員会との線引きや質問の質等は、ぜひ話し合ってみ直し、整理してください。

設問 6

- ・活動をはじめて 1 年程度なので、市民からの意見を取り込んだ政策審議など具体的な成果はまだこれからでは。テーマ設定の吟味は必要。
- ・市民への周知もふくめて、活動をぜひ継続・実行してください。

設問 7

- ・論点整理を取り入れたことで、議案審議にプラスの効果があったことが分かる。
- ・論点整理の目的を今一度、議員間で共有の上、継続してください。
- ・特にメリット・デメリットを整理すると賛否の背景が分かりやすくなる。

設問 8

- ・議会報告は、議決に至った経緯の説明が不十分と問う声が多く、今後の課題。
- ・どのような説明を行うか、話し合いをしながら一つずつ解決してください。

設問 9

- ・委員会では、これまでより多角的な質疑、討議が増えたことは、「いなべ市議会ならではの」視点の発揮にプラスになる。
- ・議員間で受け止め方には違いがあるようなので、そうした点の解消も含めて話し合い、「チーム議会」としての活動を豊富化してください。

設問 10

- ・課題が見えている状況にあるようなので今後、さらに議論を続けて調査研究の課題・テーマ設定に向けて進んでください。政策立案のスキームをつくるのも一案。

設問 11

- ・説明は受けたが、十分な説明ではないと感じている議員の方がかなりいる？
- ・議会として説明が不十分と判断したのならば、追加の説明や資料提出要求など、さらに踏み込んだ行動をとることも必要では。
- ・総合計画などでは、執行機関の策定と並行して、議会独自の検討も行い、原案策定前に提言書を提出するなどの活動も検討しては。
- ・議会基本条例において総合計画を議決事件に追加するのも一案。

設問 12

- ・多くの議員が、政策サイクルを意識して活動するようになったのは行動計画策定の成果ではないか。
- ・まだ形式的なところもあると思うが、活動を継続して政策サイクルの質を高めていくことを期待する。

設問 13

- ・ふり返りを行うことが議員間で共通のことになってきたことはプラス効果。
- ・ふり返りの位置づけ、目的の明確化等、次のステップへ高めてください。

設問 14

- ・はじめたばかりのことなので、まだ試行錯誤のことと思います。
- ・意見収集の場というだけでなく、主権者教育の場や議員のなり手発掘の場にも活用できると思います。
- ・議会モニターという仕組みをいなべ市議会として、どのように位置づけて活用していくか、議員の皆さんで意見を出し合いながら作り上げてください。

設問 15

- ・とくになし

設問 16

- ・議会の通年・通任期の研修計画を事務局とも共同して作成する方法もあると思います。議会の強みを強化するのか、それとも弱みを補強するのか研修テーマ設定が重要。

設問 17

- ・議員の評価は○8人、×が10人。委員会の評価は○です。認識にずれはありませんか？

設問 18

- ・まだ取り組み途上段階のようですが、継続して取り組んでください。
- ・主権者教育は、学校への出前授業・議会体験ツアー以外にも方策があるので、多角的に検討されるとよいと思います。

設問 19

- ・議員の評価では、○が5人、×が12人です。委員会の評価は○です。認識に差があるようですが、どこに違いがあるか確認していますか？

設問 20

- ・課題を克服して、次につなげてください。

設問 21

- ・課題を整理の上、取り組みにつなげてください。

設問 22

- ・○が 10 人、×が 8 人。理想は○が全議員でしょうか。
- ・議員同士がお互いに教え合う学習会を継続的に開催するなど、通り一遍の研修にしない工夫も必要かもしれません。

設問 23

- ・○が 10 人、×が 7 人。議会全体で共有できているでしょうか？
- ・議会 BCP を共有するとは、理解するとはどういうことか。議員間で話し合っ
て意識合わせを行うことが必要です。

設問 24

- ・ここも議員間の評価が割れています。「BCP が機能している」というイメージが各
人で違うのかもしれません。
- ・議会 BCP が機能しているとはどのような状態か？どうすれば効果的な
のか。話し合いを行いながら理解を進めていく必要があります。

設問 25

- ・ここでも○10 人、×8 人で意見が割れます。
- ・議会として非常時の情報の流れ（収集、集約、共有、発信等）を確認して、議
員全員で共有する方法等を、改めて確認されたい。
- ・仕組みがあることは大事だが、仕組みを動かす実質的な仕掛けが重要になっ
てくる。

設問 26

- ・これから、実践に移してください。

設問 27

- ・○が 3 人、×が 13 人、委員会決定が○です。議会内で意識の共有はでき
ていますか？

設問 28

- ・無理に連携体制を構築する必要はありませんが、活用できるものがあれば知
識・情報を広げるのに役立つので、ネットワークを結んでおく（連携協定
など）のも良いのではないのでしょうか。